

REPORT

写真で振り返る2019年度の共和会活動

平成から令和へと元号が変わる節目の年度となりました2019年度。共和会でも様々な新たな取り組みを行ってまいりました。活動の様子が少しでも伝えられないかと写真でご紹介させていただきます。詳細はホームページ及び、SNSをご覧くださいませ幸いです。新型コロナウイルス感染症による様々な自粛により重苦しい年度末となりましたが、年度を振り返り、改めて地域に根ざした組織としてさらに前進できるよう組織一丸となって頑張っております。



R1.4 外国人留学生の受入れ開始
ネパール・ミャンマーから5名が私たちの仲間入りをしてくださいました。



R1.7 ホームページリニューアル
ドローンを使っての撮影を行いオープニングページに使用しました。



R1.5 地域交流会の開催
5回目となる今回は～地域で元気づけらしを～をテーマに多数のご参加をいただきました。



R1.10 アジアとの国際交流
台湾から、日本の厚労省にあたる、行政機関である衛生福利部の御一行様が視察に来日されました。



月に1度のイベント食
火を使った鍋からは、美味しそうな湯気がのぼり、食堂の雰囲気も皆さんの笑い声に包まれた、温かい空間でした。



老健施設 伸寿苑のそうめん流し
スタッフと一緒に、お箸でそうめんを掬い口にされると、「嬉しいねえ。美味しいねえ」と笑顔の涙を流される方もいらっしゃいました。

◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院 / 介護老人保健施設 伸寿苑 / 共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668 (代表) FAX.093-581-3319 (共通)

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!



Careline

KYUWAKAI Press
「ケアライン」2020 春号 / 小倉リハビリテーション病院におけるSWの役割

○発行
医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 / 連携広報部 井上崇

Careline

KYUWAKAI Press ケアライン

2020

春号

特集

小倉リハビリテーション病院におけるSWの役割

REPORT 写真で振り返る2019年度の共和会活動

一歩の踏み出しを後押しする…『ソーシャルワーカー』

長い冬の眠りから目覚め春を感じる頃となりました。

今年は年明け早々から新型コロナウイルス感染症が流行しました。

ちょっと前まで海の向こうの話だったはずですが、あっという間に国内で蔓延し身近な問題となってきました。

17世紀の大航海時代ならいざ知らず4~5時間で海外に行ける時代に感染症はすぐさま地球規模で拡大することを実感しました。原稿を書いている3月下旬のこの時期、感染症は収束する気配もなく長期化が予想されますが、機関紙がお手元に届く頃はまだまだ先の見えない状態ではないかと思えます。

それにしてもクラスター、オーバーシュート、ロックダウン…と新しい言葉が飛び交い情報に迷走していますが、とにかくこの難局を皆で力合わせ乗り越えねばなりません。

さてそうした中、機関紙「ケアライン春号」を発刊しました。

今回はチーム医療が叫ばれる中、様々な調整役として奔走するSW(ソーシャルワーカー)を取りあげました。

現在、私ども共和会で働くSWは19名、病院・老健・地域リハ(在宅)・連携室、さらには役所への出向先等で活躍していますが、今回は小倉リハビリテーション病院に勤務する12名を紹介しました。

ご一読いただければ幸いです。

医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院

連携広報部長 井上崇





安心した一歩の踏み出しを後押しする 小倉リハビリテーション病院における **SW** の役割

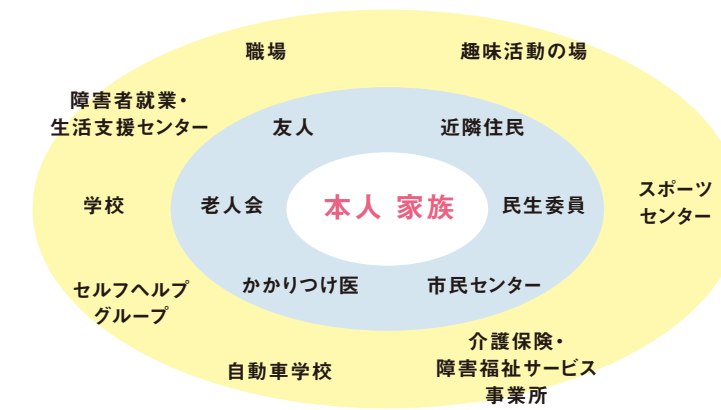
共和会には19名のSWが在籍し、12名のSWが連携広報室・病棟・外来リハをフィールドに働いています。これからの暮らしに不安を抱えているご本人・ご家族に対し、安心した一歩が踏みだせるよう後押しできる専門家であることが私たちSWの役割と考えています。

私たちが心掛けていること

患者・家族の身近な相談相手であること
10名のMSWを病棟に配置し身近な存在に

自宅や社会参加活動の現場に足を運ぶこと
地域生活の再開の支援者として

本人・家族と関わる方々との架け橋になること
インフォーマルサービスを交えた連携を意識



本人・家族の望むくらしの実現に向けて、想いを共有し、あらゆる方々と協力しながら方法を一緒に考えていきます。

私たちが大事にしているソーシャルワーク

〔回復期リハ病棟〕

“築いてきたもの”を途切れさせない

回復期は発症間もない時期に入院され、心理的な不安を抱えられる方が多いです。入院中の‘今’を支えると共に、これまでのくらしの理解を深め、その思いに寄り添うことを大事にしています。身体や社会生活の状況などを理解し、ご本人やご家族と、共に退院後の生活のイメージの共有に努めています。これまで築いてきたつながりや役割、活動などが途切れたり、諦めたりしてしまわないように支えていくことが大切と考えます。

〔障害者病棟〕

“ピアサポート”も活かしながら

障害者病棟は、進行性の疾患や重度の障害がある方に、リハビリテーションを実施している病棟です。退院を機に、自宅環境や生活が大きく変化される方もおり、退院の際の判断は慎重をきすものとなります。そこで、既に地域生活を再開されている方に、生活の様子を入院中の方にお話し頂いたり、自宅環境を拝見するなどの支援を行っています。専門職からの提案だけでなく、ピアサポートなどを通じ、ご本人・ご家族の退院後の不安軽減や社会参加への架け橋になればと思います。

〔外来リハ・短時間デイケア〕

社会参加の場に“一緒に出向く”

外来リハ・短時間デイケアでは、社会参加（就労・スポーツ・芸術・交流活動）に目を向けられるような関わりを大切にしています。社会参加は、人によって活動内容や環境、意義が様々で多様です。その為、医師・看護・リハと関係機関、同じ境遇の患者さんの力を借りながら、そして、実際の活動の場に足を運ぶことを意識しています。発症後に再び活動への参加を果たせるよう、新たな活動にチャレンジできるように、今後も働きかけてまいります。

実際の支援

Ex.1

市民センターの活動を再開したい

●入院スタッフ・在宅スタッフと目標共有

生活の安定が確認された後に短時間デイケアスタッフと共に市民センターへ訪問

●在宅部門のSWも同行訪問

環境の調整や負担のかかりにくい活動方法を提案

●関わる方々とも情報共有 困った時の窓口

Ex.2

住み慣れた家で1人暮らしを再開したい

●入院前のくらしの理解に努める

退院前訪問の際に近隣の方へご挨拶
民生委員にも担当者会議への参加を依頼

●退院後のくらし再開のための顔合わせ

ご本人、専門職、地域の方と生活を見守る体制について話し合う

●各々にできる限りの安心感を持ってもらえるように

目標や解決したい内容の共有

解決方法の検討

専門職以外の身近な方々との連携も